

2
21

美作略史  
利

美作畧史

矢吹正則著

利

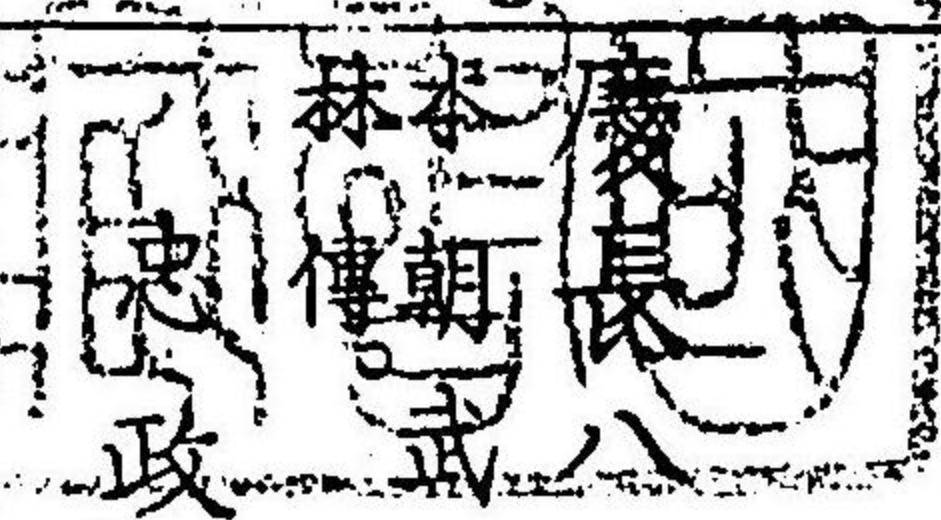
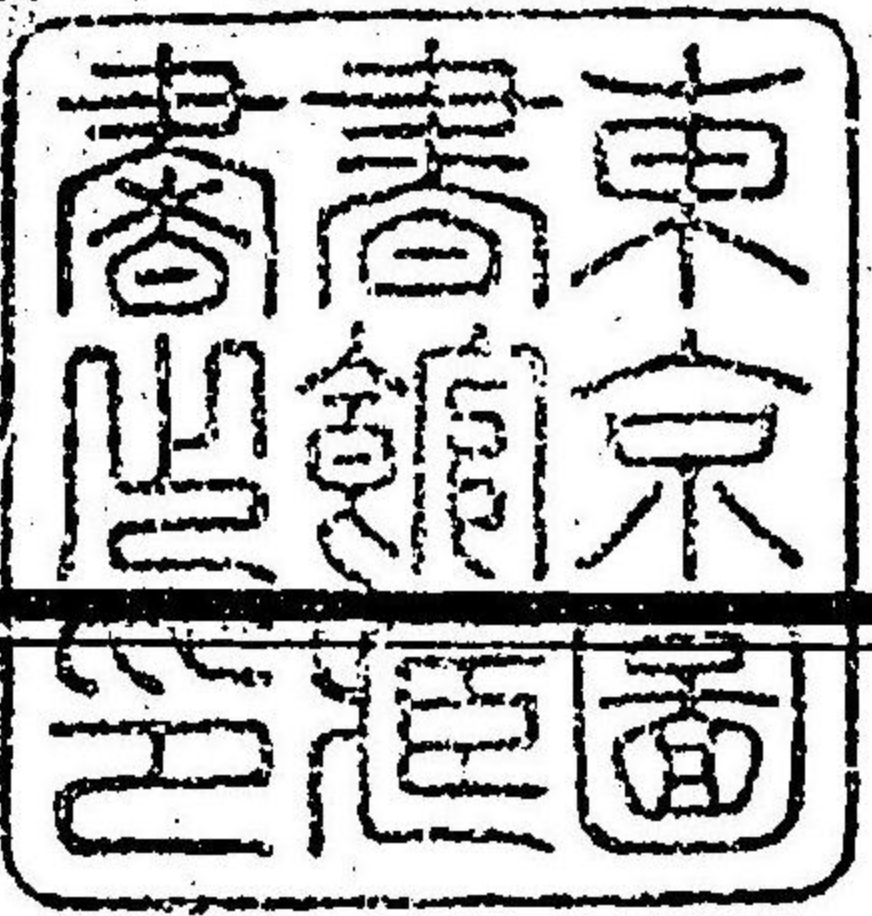
2  
21

東京圖書館

四 冊	二 一 号	一 架	二 函	屬	類
--------	-------------	--------	--------	---	---

美作畧史

130.10.20



美作畧史卷之三

津山 矢吹正則 著

男金一郎 校

慶長八年。癸卯二月六日。森忠政封于本州。森系圖。森日記。增補家忠日記。

右近幼名十九忠重、母ハハ可成ノ季子ナリ、元

龜元年、美濃金山ニ生ル、幼ニシテ原田直政ニ養ハ

ル、後又長兄長可ノ養フ所ト為ル、天正十二年、長可

長久手ノ役ニ戦死ス、豊臣秀吉、忠政ニ命ジテ遺封

ノ内金山六萬石ヲ襲ガシム、後徳川氏ニ仕ス、慶長

四年二月、信濃川中島十三萬七千石ヲ領ス、六年五

月、美濃一萬石ヲ加フ、至是、本州十八萬六千五百石ニ封セラレ、

森氏ハ、源義家ヨリ出ツ、其第六子義隆、相摸森邑ニ住シ、因テ氏トス、子頼隆信濃ニ徙リ、岩槻氏ト

稱ス、二子頼胤頼定相繼ギ、頼定森氏ニ復ス、其十

一世ノ孫可行、織田氏ニ仕フ、二子ヲ生ム可成與

後三左衛門、可政惣兵衛、後可成六子ヲ生ム、可則傳兵衛

長可武勝藏、後長定蘭坊、長氏力、忠政、忠政豐臣

氏ニ仕ヘ、羽柴豐臣氏ヲ冒ス、豐臣氏亡テ後、又森

氏ニ復ス、

三月二十六日。忠政就封。森系圖。森記錄。

先是、忠政其臣名護屋九右衛門初山、伴伊兵衛、伴久

六、河村庄助ヲ美作ニ遣ハシ、風土ヲ觀察セシム、九

右衛門等、倉敷村英田郡ニ至リ、各郡ノ資望アル者ニ

入ヲ會シ、風土民情ヲ諮詢シテ之ヲ報ス、忠政乃ハ

川中嶋ヲ發シ、丹波路ヲ過ギ、是月二十一日、一ニ五

八月ニ作ル、吉野郡下庄村ニ入ル、平尾九郎兵衛是

皆非ナリ、西州府院莊西條郡ニ達ス、美作勇士傳ニ曰ク、森

蜂起シ、播境土居ニ要撃セントス、忠政因テ道ヲ丹

波ニ取ルト、是レ謬妄採ルニ足ラズ、名護屋等ノ一

是歲、忠政殺老臣井戸宇右衛門。作陽誌。森

忠政、居城ヲ院莊構城址ニ築ントシ、井戸宇右衛門

祿四 命シテ役ヲ董サシム、名護屋九右衛門 祿三  
 千石、ニ命シテ役ヲ董サシム、名護屋九右衛門 祿三  
 宇右衛門ト善カラス、其姊忠政ニ嬖セラル、者ト、  
 中外諛ヲ構フ、忠政遂ニ宇右衛門ヲ殺ントス、九右  
 衛門請テ刺客ト為リ、營署ニ抵ル、會マ宇右衛門同  
 僚ト城圖ヲ講ズ、九右衛門大呼シテ曰ク、君命ナリ  
 ト、即チ宇右衛門ヲ斫ル、宇右衛門目ヲ瞋シ聲ヲ勵  
 テ曰ク、咄、豎子何オカ為スト、一撃シテ九右衛門ヲ  
 殪ス、衆其君命ナルヲ以テ、竟ニ宇右衛門ヲ殺ス、其  
 弟甚三郎惣十郎、津山ニ在リ、皆死ヲ賜フ、宇右衛門  
 國主金森長近ト友トシ善シ、本州ニ徙ルニ當リ、長  
 近ニ謁シテ曰ク、嬖幸權ヲ負ミ、中外諛ヲ構フ、請  
 り、利刀ヲ賜ヘ、以テ不翼ニ備ン、長近曰ク、戒心アル  
 ギ去ラザルヤ、曰ク、去レバ乃チ主人ヲ激ス、且臣道

ヲ奈何セン、吾寧ロ死地ニ就クモ去ルヲ欲セズト、  
 長近乃チ帶ブル所ノ刀ヲ解キ之ヲ與フ、是ニ至リ、  
 果シテ此変ニ  
 遺フト云ス、

九年。甲辰。二月。裁堦樹。森記

忠政幕令ニ從ヒ、官道三十六町コトニ堦樹ヲ裁ニ、

十一月二日。忠政頌社寺領。森記。森限帳。森

先是、忠政中山西一宮村、高野二官村、總社三社ニ神領

各三十石ヲ寄附ス、是ニ至テ、又中山總社ニ各五十

石、高野ニ四十石ヲ増附シ、本山寺定宗、圓通寺田村

ニ各百石、長福寺真神ニ九十石餘、佛教寺佛村ニ八

十石、普善寺木山、誕生寺北庄里、金剛頂寺山城、大聖

寺大聖村、慈恩寺桑村ニ各五十石ヲ附與ス、後森氏ノ社

山北村八幡、小田中村白神、上之町大隅、八出村天神、  
 四社寺領、千高寺、一宮村本光寺、真加部村興隆寺、  
 繁寺、田村、山寺、萬福寺、院庄寺、清眼寺、神村神林寺、  
 大瑞景寺、邊村、津山宮川新宮、愛染寺、本琳寺、本覺寺、  
 村米景給、スル者、津山宮川新宮、愛染寺、本琳寺、本覺寺、  
 原米景給、スル者、津山宮川新宮、愛染寺、本琳寺、本覺寺、  
 寺、溪花院、宗堅寺、大雄寺、石松院、小原村玉傳寺等、  
 城、○妙法寺、初メ鶴山ニ在リ、妙王院ト稱ス、忠政築  
 受不施宗ナルヲ以テ、固ク辭シテ受ケズ、後日第ヲ  
 新坐ニ造ルニ及デ、又  
 之ヲ西寺町ニ移ス、  
 定収税法、森記

是日、忠政自ラ三條ノ法ヲ書シ、之ヲ封内ニ頒ツ、曰  
 ク、柁ハ丸判ヲ用ヒ、曰ク、俵ハ重苞トシ、曰ク、口米ハ  
 一石ニ二外トス、且郡吏私非アレハ、直ニ之ヲ上告  
 スベシト、

十六日、造營德守神社。森記、德守社記、小原家記。

是年、忠政故アリ、院莊ヲ棄テ、津山津山初メ鶴山  
 同訓ナルヲ以テ、城カントス、德守ハ其地ノ舊社夕  
 テ、津山ニ改ム、ルヲ以テ、先ツ社殿ヲ造營シ、邑ノ總鎮守ト為シ、社  
 領七十石ヲ寄附ス、今ノ社即チ是ナリ、寛永十二年、  
 長継又十石ヲ増附ス、

是歲、丈量田圃。檢地帳、森記、錄、作陽誌。

忠政大倉如真、牧家信藤左衛門、俱等ヲ率テ、封内ヲ  
 巡視ス、而ノ其臣大洞十太兵衛、板津勝五郎、岸九兵  
 衛、藤田六兵衛、水野喜兵衛等ニ命ジテ、田圃ヲ點檢  
 丈量セシメ、高五萬六千石ヲ得タリ、

十二年丁未九月洪水成覺寺

十三年戊申十月十四日各務四郎兵衛與小澤彦八闘于

石山作陽誌森家全盛記

築城ニ當リ石ヲ大谷金屋二村並久米ニ取ル老臣  
各務四郎兵衛勝山城ヲ守護ス郡小澤彦八元幕臣  
之ヲ監シ半日ヲ以テ交代ス二人素ト隙アリ是日  
四郎兵衛細野左兵衛千石ト共ニ石山大谷ニ抵ル  
彦八巖角ニ踞シ戯ニ砂礫ヲ彈ク而テ偶マ四郎兵  
衛ニ觸ル四郎兵衛佛然其非禮ヲ誚ム彦八屈セズ  
反テ之ヲ罵ル左兵衛救解ス二人聽カズ四郎兵衛  
挺ヲ把テ彦八ヲ歐ツ左兵衛四郎兵衛ヲ擁止ス彦

ハ乃チ刀ヲ拔キ四郎兵衛ヲ斬テ左手ヲ墮ス左兵  
衛狼狽シ四郎兵衛ヲ齧ニ擠ス彦八齧ニ下リ當ニ  
之ヲ刺ントス四郎兵衛崛起シ彦八ヲ斬リ之ヲ殺  
ス四郎兵衛ノ家臣佐藤作太夫左兵衛ノ主人ヲ擠  
スヲ怒リ槍ヲ執テ之ヲ串ク其夜四郎兵衛家ニ歸  
テ自殺ス忠政江戸ニ在リ報ヲ得テ三氏ノ祿ヲ没  
ス四郎兵衛ハ兵庫元正ノ子ナリ忠政元正ノ舊勲  
祿若干ヲ給テ四郎兵衛ノ二弟吉左衛門藤兵衛ニ  
ニ老臣ニ列ス

是歲忠政遷鶴山八幡社于山北村作陽誌森家全盛記

社初メ鶴山ニ在リ山名忠政判官在城ノ日崇敬スル  
所ナリ森忠政城ヲ其墟ニ築クニ及テ社ヲ城南觀

山久米南條、遷ス、是年八月十四日、忠政夢ム神告  
 テ曰ク、祠ヲ他郡ニ徙ス勿レ、當ニ舊郡西北ノ地ニ  
 祀ルベシト、是ノ如キ者累夕、忠政心之ヲ異ミ、近臣  
 伴唯利藤右衛門、祠官富岡政義新左衛門、ヲシテ地ヲトセシ  
 ム、二人對ルニ城ノ乾位不知夜山西北條郡ヲ以テ  
 ス、忠政其夢ト相符スルヲ以テ、倍之ヲ奇トス、乃チ  
 其臣河井又右衛門ニ命ジテ祠堂ヲ造營シ、社領五  
 十石ヲ寄附ス、舊ニ依テ鶴山八幡宮ト稱ス、  
 十四年巳酉、割英多郡大河内村為十村。江見家記。  
 大河内村、土地廣漠ナルヲ以テ、割テ岩邊、大内谷、豐  
 野、松脇、鯨瀬戸、蘆河内、吉田、藤生、川崎十村ト為シ、大

河内村ノ名ヲ廢ス、

老臣大塚丹後守勝山城。作陽誌。大塚家譜。

忠政、丹後祿七ニ命ジ、各務吉保吉左衛門ニ代テ之ヲ守

ラシム、丹後初ノ治右衛門ト稱ス、森可成、長可、忠政  
死ス、子主膳、孫丹後、曾孫内膳、相繼ク、而ノ内膳大ス、  
森氏乃チ其弟監物ニ四千石、左門ニ千石ヲ給シ、仍  
ホ城ヲ守ラシム、延寶中、左門仕ヲ致  
シテ後、監物モ亦病ヲ以テ辭シ去ル、

後水尾天皇慶長十七年壬子、森可政徙于津山。森系圖。森記錄。

可政ハ忠政ノ叔父ナリ、織田豐臣二氏ヲ歴テ、徳川  
 氏ニ仕フ、関ヶ原ノ役、軍功アリ、從五位下ニ叙シ、對  
 馬守ニ任ス、忠政幕命ヲ奉シ、駿府篠山、名古屋諸城  
 ノ修築ヲ掌ルヲ以テ、幕府ニ請ヒ可政ヲシテ國ニ



就事ヲ攝セシメ、祿七千石ヲ分テ之ニ給ス、可政  
 伊豆守重信ヲ江戶ニ留メ、五子米可春、六子左近  
 正信ヲ挈、津山ニ至ル、元和九年五月卒ス、年六十  
 四、西寺町桂德寺ニ葬ル、可春始テ臣下ニ列ス、其子  
 宗兵衛三信ヲ歴元、米女三隆ニ至リ、森氏國除ス、○  
 桂德寺、後壽  
 光寺ト稱ス

十九年、甲寅冬、大坂之役、忠政從之。森記錄冬陣備立。

忠政江戶ニ在リ、事起ルニ及テ、直ニ大坂ニ赴キ、天  
 満口ヲ攻ム、十二月十九日、兵解テ歸ル、

元和元年、乙卯夏、大坂之役、忠政又從之。森記錄大坂陣首帳。

忠政船場口ヲ攻メ、首級二百六ヲ獲タリ、五月七日、  
 城陷リ國ニ歸ル、此役、森可春、井上弥次兵衛、吉田九  
 市郎、飯尾嶋之丞、津田勘兵衛、森田弥右衛門、木村傳

三郎等最モ功アリ、冬夏ノ兩役、忠政封内ニ令シテ  
 早川氏等遺臣民間ニ在ル者、自ラ請  
 フテ隊伍ニ編入シ、役ニ赴ク者多シ、  
 二年、丙辰津山城成。森記錄。

先是、忠政城ヲ築ク、豊前小倉城ニ摸倣セント欲シ、  
 人ヲ遣シ之ヲ圖セシム、至是、其城主細川忠興鐘ヲ  
 贈テ成ヲ賀ス、忠政之ヲ天主閣ニ安ク、狀牽牛花ニ  
 似ルヲ以テ、俗ニ朝顔ノ半鐘ト稱ス、天主閣五層高  
 西十間、南北十一間、樓櫓七十七、門數四十一、○忠政  
 五層ノ天主閣ヲ造リ、幕府ノ猜嫌スル所ト為ル、幕  
 吏之ヲ詰ル、忠政答ルニ、四層ヲ以テ善クス、從テ江戶將  
 二之ヲ檢セシ、密旨ヲ奉シ、其夜、津山ニ歸リ、一層ノ  
 庇ヲ撤シテ之ヲ待ツ、吏來リ檢シ、咎ル能ハズシテ  
 去ル、一説ニ云ク、忠政譴責ヲ幕府ニ獲ル、其臣櫻井  
 某、築城ヲ掌ルヲ以テ、躬ラ之ニ當リ、隱岐ニ配セラ

美作器成 卷之三 對持林 七二村 欽 樓 六 載

ル、今隱岐ニ美作屋ヲ称スル者アリ、此レ其裔ナリト、按ニ天主閣四庇ニシテ五階ヲ存セリ、益シ上説採ルベキニ似タリ、

三年。丁巳。南新坐士策。及林田町成。森家侍屋敷。割帳。東作誌。

英多川大水。青野村明細帳。石川家記。

先是、勝南郡王子高下、飯岡三村ハ、英多川ノ北岸ニ在リ、是時水道変易シ、三村ノ間ヲ環流シ、高下村獨

リ川南ト為リ、英多郡ニ接ス、

五年。己未。六月。忠政收廣嶋城。森記録。戶幕府福嶋正則ノ所領安藝備後ヲ没ス、於是忠政松

平忠雄國備前加藤嘉明津藩主、戶川達安備中庭等ト

幕命ヲ奉シテ廣島城ヲ收ム、

幕命ヲ奉シテ廣島城ヲ收ム、

六年。庚申。三月二十三日。祀大隅神社于上之町。東作誌。○天和三年。誤。

橋本町、林田町、勝間田町、中之町ノ居民、大隅神社南

條郡林田村、ヲ上之町ニ分祀シ、以テ産神ト為スヲ請フ、

森氏之ヲ許シ、社領二十石ヲ寄附ス、

九月十日。坪和郷人竹内久勝死。作陽誌。竹内家記。

久勝ハ久盛中務ノ第二子、初メ藤一郎ト稱ス、父ノ

業ヲ継キ、劍法及ビ柔術ヲ善クシ、其奥ヲ極ム、嘗テ

京師ニ游ブ、豊臣秀次之ヲ寵賞シ、常陸介ニ任ズ、蒲

生氏卿亦之ヲ優遇ス、久勝名世ノ力士宇喜多詮家、

左京亮、備前富山城、戸田五郎兵衛尾張人、ト技ヲ較シ

皆弟子ト為ル、其他經紳名家ノ、贅ヲ執リ門ニ入ル者甚ダ衆シ、近衛閑白、召テ日下開山ノ號ヲ賜フ、後角石谷村久米北ニ歸リ、病テ死ス、久勝ノ子藤一郎ヲ承ケ、世ニ名アリ、弟子一千餘人、亦京師ニ游ブ、鷹司閑白、其技ヲ喜ミシ加賀介ヲ授ク、是歲、忠政修大坂城、森記。平尾家記。杉山又六筆記。

忠政幕命ヲ奉ジ、國民數千ヲ募リ、大坂城ノ石垣ヲ修築ス、寬永元年及比五年、又之ヲ修ス、

七年。辛酉。津山川大水。森記。陽誌。

先是、津山川ハ二宮村西條郡ヨリ東流シ、小田中村西條郡ノ鼻西條郡ニ至ル、於是、水道南ニ寔ジ、龜ヶ淵埋ル、

九年。癸亥。割勝北郡梶並西谷村。置馬桑村。東作誌。郷村帳。

元和中。重臣渡邊越中。棄祿去。森記。

越中、小田原大坂ノ兩役ニ從ヒ、功アリ、重臣ニ列ス、

忠政江戸ニ詣ル、途大水ニ會ヒ、越中ニ命テ之ヲ

測ラシム、越中輒チ從者ト流ヲ亂シ、前岸ニ達シ、颺

言シテ曰ク、戰ニ臨ミテ流ヲ亂リ敵ヲ鑿スルハ、固

ヨリ吾輩ノ任ナリ、夫ノ水ノ深淺ヲ測ルガ若キハ、

則チ卒隸ノ事ナラズヤト、遂ニ去ル、越中曾テ津山

庫ト基ヲ圍ム、條々又ハ、傍ニ在リ、越中ヲ助ク、兵庫

大ニ怒リ、又ハヲ拳ス、又ハ曰ク、巡拳ナリト、直ニ越

中ヲ拳ス、越中亦兵庫ヲ拳シテ止ム、時ノ人其權智ヲ稱ス、

寬永二年。乙丑。吹屋町成。森記。 森氏鑄五ヲ瓜生原村勝南郡ヨリ、津山ニ徙シ業ヲ開

カシム、其地ヲ名ケテ吹屋町ト曰フ、

三年。丙寅。八月十九日。忠政入朝。森記録。將軍上洛記。

是日、忠政將軍秀忠ニ從ヒ入朝ス、左近衛中將兼美作守ニ任ズ、世子忠廣從四位下ニ叙シ、侍從、右近大夫ニ任ズ、忠廣ハ忠政ノ第三子ナリ、慶長九年、院庄

聞、忠政近衛少將ニ任ズト為ス、誤ナリ、寛永十年、江戸ニ卒ス、○慶弘紀

是歲、林田新町成。美作記。東作誌。

元和中、中之町既ニ成ル、爾來人民又輻湊シ、家屋櫛比ス、是ニ於テ、佐佐木太郎兵衛、請テ市街ト為シ、新町ト名ヅク、

明正天皇。寛永八年。辛未。勝北郡真加部村大火。東作誌。

十一年。甲戌。七月七日。忠政卒。森系圖。森記録。作陽誌。

將軍家光上京ス、忠政乃チ津山ヲ發シテ京師ニ入り、妙顯寺ニ館ス、居ル七日、病ニ罹テ卒ス、享年六十

五、法謚本源、紫野大德寺ニ葬ル、忠政卒スルノ夜、西ルガ如シ、郡土居村、雖雄ニ山、共ニ震動シ、巖崖崩列スニ月ニ如シ、而ノ土石依然タリ、不日計至ル、延寶二年怖ル、此日、森忠繼果テ卒ス、

八月二日。長繼嗣。森系圖。森記録。関家記。

長繼ハ関成次九郎次郎、後民部、ノ長子ナリ、慶長十五年、津

山ニ生ル、兵助ト稱ス、忠政其外孫タルヲ以テ之ヲ愛シ、祿若干ヲ給ス、嗣子忠廣夭スルニ及デ、之ヲ立ント欲シ、命ジテ森内記ト名ヅク、其病革ナルニ當

テ之ニ讓ルヲ請フ、長繼江戸ニ在リ、計ヲ聞キ西上ス、是日ニ係ル、日將軍家光ニ二條城ニ謁シ、忠政ノ遺封ヲ襲グ、重臣關成次、森可春、大塚主膳三俊、各勢主水正利、森正信、從テ家光ニ謁ス、十二月、檢人員、森記錄。美作稱。

士卒陪隸一萬四千二十人、神官僧侶五百六十二人、修驗一百二十七人、農十六萬七千三百二人、商一萬四千三百四十九人、計十九萬六千三百六十人、十二年、乙亥。長繼東觀。森記錄。國朝舊章錄。

先是、寬永六年。幕府諸候ニ令シテ妻子ヲ江戸ニ移サシム、是年六月二十一日、諸候會同、期ヲ定ム、後恒ニ隔年四月ヲ以テ東上ス、初ノ幕府諸候ノ重臣一人ヲ江戸城ニ居キ質小為ス、

寛文五年七月ニ至テ之ヲ廢ス、文久二年、又妻子ヲシテ國ニ就シム、十三年、丙子。夏。旱。祈雨于龍王祠。作陽誌。

祠ハ佛教寺、久米南條郡ノ山中ニ在リ、長繼郡吏ヲシテ雨ヲ祈ラシム、乃チ雨フル、

十四年、丁丑。冬。西新座。椿高下士第成。森家侍屋敷割帳。十五年、戊寅。長繼奉幕命拘松倉勝家。森記錄。慶弘紀聞。作流勝家于會津。誤。

肥後天草ノ亂、勝家及ビ其臣二人ヲ拘シテ森氏乃チ其邑ヲ收メ、勝家及ビ其臣二人ヲ拘シテ森氏

ニ屬ス、四月十四日、勝家津山ニ至ル、長繼之ヲ城中ニ幽ス、幾ク無シテ、幕府復之ヲ江戸ニ召シ死ヲ賜フ、七月十九日、森氏ノ芝邸ニ自裁ス、

寛永中。藩士吉田作右衛門。殺僕市助。作陽誌。森家全盛記。

作右衛門人ト為リ強勇、角觚ヲ好ミ、毎ニ友人ヲ會

シテ其技ニ誇レリ、一日、其僕市助ニ官村傍ニ在リ、

作右衛門曰ク、吾汝ガ腕力ヲ試ント、市助固辞ス、聽

カズ、遂ニ相撲ツ、市助性率直ニシテ膂力アリ、輒チ

作右衛門ヲ投ズ、一坐手ヲ拍テ激賞ス、作右衛門慙

愈シ、其夜、父長左衛門ト謀リ、市助ヲ殺ス、市助ノ父

與兵衛、其寃死ヲ怨ミ、尸ヲ負テ御先神祠高野神社

在ニ詣リ、仇ヲ復スルヲ祈リ、俄ニ顛狂シテ死ス、是

ヨリ後、吉田氏妖怪アリ、厭穰效ナク、年ヲ超テ家人

皆死ス、初メ狐来テ幽冥ノ事ヲ語ル、唯聲アリテ状

ヲ見ズ、一日言フ吾書ヲ能スレト、人覽ルヲ欲セズ

ト、家人怪テ筆硯ヲ與フ、墨倏チ自磨シ、紙筆飄揚シ、

地ヲ距ル丈餘ニシテ文字ヲ現出ス、乃チ紀貫之ノ

詠歌忍ブレド、戀シ、キキハ、足曳ノ、ニシテ筆態頗ル

風致アリ、之ヲ高野神社ニ藏ム、

後光明天皇。正保二年。西。製國圖。森記。

森氏、幕命ニ從ヒ、封内ヲ測量シ、地圖ニ葉ヲ製ス、

改久米北條郡大井北方村、為中北村。作陽誌。

三年。丙。五月二十八日。下禁令九條。小原家記。

九條中、津山川西々條郡久田村ヨリ、勝加茂川東北

水源ヨリ、津南郡木知ヶ原村ニ至ル宮川西一條郡西一宮村ニ至ル、

山川ニ至ル、津山川ニ至ル、宮川ヨリ、津山川ニ至ル、

不<sup>レ</sup>後長成之ヲ改メテ津山川ハ西條郡山城村ヨ  
 綾部村ヨリ津山川ニ至ルノ間ト加茂川ハ東北條郡  
 真島郡見尾村ヨリ横部村ニ至ルノ間ヲ禁ゼリ  
 慶安元年<sup>戊寅</sup>。管繩手官道成<sup>。郷村治</sup>。華繪<sup>。因</sup>。

先是官道ハ津山ヨリ藪ノ鼻ヲ經テ二宮村ニ出ヅ、  
 元和中津山川南ニ變シテヨリ小徑ヲ其磧間ニ開  
 キ、筋違道ト稱ス、至是其往復ニ便ナルヲ以テ始テ  
 官道ト為シ、茶肆四戸ヲ置キ、皆其地租ヲ免ス、<sup>初</sup>  
 國主堀尾、松平氏等、江戸ニ詣ル毎ニ又米北條郡宮  
 尾村ヨリ錦織、佐良、種、大戸ノ諸村ヲ經テ、備前三石  
 津山ヲ過ギテ播磨ニ出ヅ、<sup>取</sup>  
 開墾西々條郡布原<sup>。郷村沿革繪</sup>。  
 布原<sup>古川</sup>ハ曠野ナリ、長繼命シテ之ヲ開墾シ、杳杳

美川ノ水ヲ漑ガシム、

三年<sup>庚寅</sup>。割久米南條郡東山村。為四村<sup>。作陽</sup>。

東山村ハ稻岡荘ニ在リ、割テ新莊、山城、金堀、羽出木  
 ノ四村ト為シ、東山村ノ名ヲ廢ス、

兼應元年<sup>壬辰</sup>。十二月。関長政列諸候<sup>。森記録、関家</sup>。

長繼、長政ニ一萬八千七百石ヲ分テ、幕府ニ請テ諸

候ニ列セシム、於是長政細野友祐<sup>市郎右衛門、祿千</sup>  
 給<sup>テ</sup>所<sup>大橋重次</sup><sup>忠兵衛、祿</sup>ヲ以テ家老ト為ス、長政  
 ナリ、城內松ノ段ノ下ニ在リ、  
 江戸ハ増上寺海手ニ在リ、

関氏ハ藤原秀卿ヨリ出ヅ、其裔関長重、尾張一宮  
 ニ住シ、織田氏ニ仕フ、子成共、美濃鴻野城ヲ守リ、

森可成ノ女ヲ娶ル、長久手ノ役、森長可ト共ニ戰死ス、二孤成次、竹若、森氏ニ依リ、津山ニ從ヒ移ル、成次、後忠政ノ女ヲ娶リ、四男一女ヲ生ム、長子長繼、森氏ヲ續ク、次子長政、但馬守、後家ヲ承ク、次長明勘、解衆之正、俱ニ森氏ニ祿仕ス、女ハ森正方、所衛門、森氏ニ配ス、竹若、忠政ノ母、妙向禪尼ノ遺命、和三年、忠政、妙願寺ヲ津山ニ創建シ、了向ヲ以テ開祖トス、是歲、令農民居田間者、從山麓、  
沿革繪圖。

農民田圃ノ間ニ家居スル者多シ、長繼、其良地ヲ填塞スルヲ憂ヒ、命ジテ山麓ニ徙リ居ラシム、是年、久郡暮田、古城、北三村ノ居民ヲ徙ス、明年、同郡一、方村、居民ヲ四、川、南ニ徙ス、明曆二年、西々條郡、占原、新森

原ヲ村ノ居民ヲ徙ス、寛文四年、勝南郡川邊村ノ居民ヲ徙ス、貞享二年、東南條郡川崎村ノ居民ヲ徙ス、連アテラズ、

二年、癸巳、修營梶並ハ幡宮、東作誌。社並北郡梶、ハ梶並莊十村ノ産神ナリ、是年、長繼資若干ヲ捐テ、之ヲ助ケ修ス、

三年、甲午、七月十九日、洪水。森記錄。後西天皇、明曆元年、乙未、三月、宮脇町成。森家侍屋敷割帳、小原家記。築城以來、庶民輻湊シ、東ハ新町ヨリ、西ハ安岡町マデ、肆店鱗次ス、陸續來リ居ル者猶多シ、於是、藩臣南條次郎右衛門、吉原吉左衛門ノ第ヲ收テ、市廛ニ屬ス、其地、德守神社ニ接スルヲ以テ、宮脇町ト名ヅク



ト云フ、淺又徳守神社ノ境地ヲ割キテ、市街ニ属ス、街ニ属スルヲ請ヒ、止マズ、森氏乃チ其不敬ヲ責メ、之ヲ死ニ處シ、而ソ兩町ヲ市街ニ属シ、北担ヲ免ス、今其年月詳ナラズト雖モ、寛文七年以前ノ事タル明ナリ、嘉永中、安岡町ノ人、祠ヲ建テ之ヲ祀ル、十月十三日、改定市制森記。

市制十七條、第一、忿争鬪毆ハ、舊法ニ仍テ理非ヲ問ハズ、共ニ死ニ處ス、荷擔スル者ハ罪ヲ同フス、第二、子弟ノ鬪争ハ、父兄之ヲ制止スベシ、教唆スル者ハ曲事ニ處ス、第三、吏長ノ僉議ニ從ハズ、私意ヲ張ル者ハ、曲事ニ處ス、若シ吏長非アレハ、職ヲ解テ罪ヲ科ス、第四、買懸リ若クハ負債シ、死スル者ニシテ嗣子ナキハ、口入人ニ徵スベシ、若シ證跡ナケレバ然

ラズ、第五、父母及ビ胥吏ノ教令ニ違犯スル者ハ、暫ク獄舎ニ拘置ス、尚性行ヲ更メザレハ之ヲ追フ、若シ父母ニ遺恨ヲ挾ム者ハ死ニ處ス、第六、親子ノ口論ハ、親戚或ハ吏長之ヲ調和スベシ、若シ服從セズシテ詞訟セバ、詮議ノ上父母ノ意ニ任セ、其子ハ獄舎ニ拘置シ、或ハ他方ニ追放ス、第七、兄弟ノ詞訟ハ質對セシメ、曲者ニ罪ヲ科ス、第八、夫婦離婚シテ、敷銀衣具等返サザル者ハ、曲事ニ處ス、第九、傭人家長ト對決ヲ乞フテ、傭人若シ非アレバ、獄舎ニ拘置シ、別ニ其罪ヲ科ス、第十、家跡ヲ次子ニ譲ラントスルヲ以テ、嫡子出訴スルモ、其父在世中疎意ノ證アレ

バ其意ニ任ズ、若シ繼母ノ意ニ出テ、嫡子奉養ノ欵  
 ルコト無レバ、嫡子ノ進退トス、第十一、父母ノ肯ゼ  
 ガル女ヲ娶ラントスル者ハ、狼藉ニ坐ス、第十二、寡  
 婦、亡夫ノ親族ニ其人ナクシテ、他人ノ子ヲ養ント  
 欲セバ、親族及ビ組合人之ヲ周旋スベシ、第十三、寡  
 婦財産ヲ恣ニシ、或ハ奸通シテ忤ザル者ハ、之ヲ去  
 リ、親族協議シテ當器ノ人ヲ撰ミ、其家ヲ齊ヘシム  
 ベシ、第十四、本夫姦通ノ證ヲ以テ訟レバ、姦夫姦婦  
 同罪ニ科ス、既ニ訟ルル後ハ、私ニ遺念ヲ遂ルヲ得  
 ズ、第十五、放火スル者ハ重罪ニ處ス、其盜犯ノ為ニ  
 放火スル者ハ、先例ニ依テ親子兄弟並ニ死ニ坐ス、

第十六、公事人アレバ、人ヲシテ之ヲ調和セシム、甲  
 ハ服シ、乙ハ服セザレバ、質對セシム、不服者、及テ罪  
 アレバ、其咎最トモ重シトス、第十七、謀書謀判ハ、嚴  
 科ニ處ス、執筆スル者同罪トス、

是歲點檢山林課税山林改帳  
美作鏡

津山近郊一里内ノ地ハ、四面燥地、一面  
三百歩、或ハ四面半  
燥地、ヲ以テ一反ト為シ、二里内ハ五面燥地、或ハ五面半  
燥地、ヲ一反ト為シ、其他ハ凡テ六面ヲ以テ一反ト為  
 ス、而ノ其村位村位ハ三等ニ別  
上中下ト稱ス、ト漕運ノ便否ニ由  
 リ、之ヲ三等ニ劃テ、上等一反ニ銀一錢目二分ヲ課  
 シ、以下十分ノ二ヲ遞減ス、後數年ニシテ、山林二萬

九千五百零九所、及別四千二百零一町餘、稅銀二十  
三貫目餘ヲ得タリ、

二年。丙申。三月二十八日。權僧正生順。寂于江戸。美作詩。

生順本姓ハ漆氏、稻岡某ノ子ナリ、天正十五年、上河

内村大庭ニ生ル、天資穎悟、嬉戲常ニ佛事ニ擬ス、甫

テ八歳、邑ノ別宮寺寛永十六年、生順之ヲ修造シ、圓融寺ニ改ム。僧生盛ニ

從フ、生盛勸テ僧天海慈眼ニ學バシム、天海生順ヲ

見、歎ジテ曰ク、宗風ヲ闡揚スル者ハ、此田舎僧ナリ

ト、生順孜孜トシテ懈ラズ、遂ニ台門ノ奥旨ニ造詣

ス、嘗テ天海ノ命ニ從ヒ、精廬ヲ東叡山ノ東北ニ結

ビ、護國院ト名ヅク、寛永七年、幕府目黒瀧泉寺ヲ以

テ生順ニ附ス、一日、將軍家光、此ニ獵シ、愛鷹條ヲ脱  
シ、適ク所ヲ知ラズ、家光心之ヲ惜ミ、本尊不動明王  
ニ默禱ス、俄ニシテ翩翩來リ歸ル、是ヨリ生順益渥  
遇セラレ、權僧正ニ補ス、寂ス年七十、

大和元興寺僧蓮尊、山城安樂院僧慈山、和田氏、或曰、吉野郡

辻堂村ノ人、亦俱ニ本州ノ人ニシテ、日本高僧傳、行業

記、及ビ續日本高僧傳本州圓通寺僧ニ載セドモ

姑ラク其傳ヲ略ス、

寛文元年。辛丑。八月。改郡名。森氏雜記。地方書類。舊免狀。作陽古簡集。

上古六郡タリ、貞觀中、吉田郡ヲ分テ、吉東、吉西二郡

ト為ス、後英多元祿以後、多ク郡ヲ割テ、吉野郡ヲ置

キ、勝田郡ヲ分テ、勝南勝北二郡ト為シ、久米郡ヲ久米南條、又米北條二郡ト為シ、又苦東苦西二郡ヲ割テ東南條、東北條、西西條、西北條四郡ト為ス、至是、長繼其舊稱ニ據リ、西北條ヲ改メテ苦南、西西條ヲ苦西、東北條ヲ苦北、東南條ヲ苦東、久米南條ヲ久米南、久米北條ヲ久米北、勝南ヲ勝田南、勝北ヲ勝田北ト為ス、苦田郡ニ其外、分割及ビ改稱ノ年月、國史ニ載セズ、故ニ郡外、分割及ビ改稱ノ年月、國史ニ載セズ、三月、二官ノ鐘銘ニ西々條郡、永祿五年八月、柵原村、福田吉左衛門政秀ノ造營セシ所、口、連石神社ノ原村、勝田吉左衛門政秀ノ造營セシ所、油木村上左衛門尉久成ニ與ル書ニ久米北郡、慶長七年九月、小早川秀詮ノ出ス知行目録ニ久米南條郡、久米北條郡、八年八月、森氏ノ郡吏、田熊村へ出ス所、久米北條郡、北郡、九年、森氏ノ檢地帳ニ東南條郡、東北條郡ト為スヲ見ルナリ、録シ以テ後ノ參考ニ備フ、

靈元天皇。寛文三年。癸卯。十一月。長繼修營高野神社。森記

社ハ二宮村ニ在リ、慶長十一年、忠政ノ室羽柴氏之ヲ修ス、至是、長繼社殿ヲ造營シ、結構壯麗ヲ極ム、今社、即チ是ナリ、

四年。甲辰。吉野郡梶原村、劔關道路。森記

勝北郡ヨリ、赤田、古町諸村吉野ニ抵ルノ間、金兒峠同郡鷺アリ、其路險隘、人馬大ニ困ム、於是、新道ヲ闢キ之ヲ便ニス、

五年。乙巳。六月七日。長繼奉幕命拘高島長近。森記

長近又左衛門ハ池田長孝備中守、備中ノ第五子ニシテ、

森長繼夫人ノ弟ナリ、幕臣高島氏ヲ嗣グ、是年罪アリ、幕府其禄ヲ没シテ森氏ニ属ス、長繼之ヲ城中ニ幽ス、元禄元年八月三日、幕府長近ノ罪ヲ免シ、江戸ニ召還ス、長成厚ク旌装ヲ備ヘテ之ヲ送ル、七年、丁未、六月十三日、香香美川洪水、安黒家記。圓通寺縁記。八年、戊申、十一月、長繼創建千年寺于苦南郡田邑村。録、森作詩。

十一年、辛亥、三月十三日、長繼免古河與吉等田租。森記、録。長繼幼時英多、香合勝田北、成松二村、是苦北原、口久米南全間、原久米北、小山、坪和、二村、苦西、原村、六郡ノ地百六十石ヲ領ス、俗領之ヲ部屋ス、是日、其領民古河與吉、原口村等ヲ召シ、永ク田租ヲ免ス、俗之ヲ作リ、六月十一日、又取リト称ス、

平尾七兵衛全間村人等ノ田租ヲ免シ、凡テ百六十石ルナ親シク七兵衛ヲ延テ、其欲スル所ヲ言ハシム、七兵衛感泣再拜シテ曰ク、津山城下牛ヲ牽テ經過スルヲ禁ズ、故ニ禾穀薪炭ノ運輸、皆人力ニ頼ルヲ以テ、價額自ラ昂貴セリ、小人ハ南鄙ノ民、敢テ之ニ関セザレドモ、衆庶ノ為ニ深ク之ヲ憂フ、請フ此禁ヲ解カシコトヲ、則チ衆庶ノ幸福ニシテ、而ノ小人ノ大願モ亦了ルト、長繼之ヲ善トシ、即チ禁ヲ解ク、延寶元年、癸丑、改苦南郡森村、為澤田村。作陽、陽洪水、郷村沿革繪、元禄雜書。萬治中、津山川ヲ浚鑿シ、船ヲ箱村西、西、郡、ニ通ゼリ、至

是、船路復壅塞ス、高田川大庭郡内野目、河原村ノ内、加茂川隼原村、郡等、皆水道大ニ変ズ、

二年甲寅四月二十六日、長繼致仕、長義嗣。森系圖、森記録。

是年二月、世子從四位下忠繼美作卒ス、子長成萬門右

尚幼ナリ、於是、長繼次子長義伯耆守、幼名兵藏、既

立テ嗣ト為シ、而ノ長成ヲ子養セシム、五月二十六

日、長義將軍家綱ニ江戸城ニ謁ス、重臣、森宗兵衛三

神尾藏人正勝、百百玄蕃

四年丙辰四月二十五日、森長俊列諸候。森系圖、森記録。

長俊對馬守、初ハ長繼ノ第三子ナリ、延寶二年七月、

祿一萬石ヲ領ス、明年十二月、從五位下ニ叙ス、至此

長繼長義ト謀リ、更ニ新田一萬五千石勝北郡ノ内

ヲ領テ、幕府ニ請テ諸候ニ列セシム、長俊乃チ可兒

正盛藤兵衛、橋本政辰善右衛門ヲ以テ家老ト為ス、長俊ハ城ノ

中藥研濠ノ東ニ在リ、江戶ハ目黒ニ在リ、

十月十五日、長義造楮幣。森記録。

銀一貫目、五百目、百目以下數種ヲ製ス、

六年戊午、神崎則休、斬暴人。忠誠後鑑。

則休與五郎ノ父光則又市、猶水ト號ス、書暨ト和歌ヲ

則休女ヲ娶リ、ハ森氏ノ臣ナリ、則休ニ日、從弟箕作十

兵衛ト共ニ林田ヲ過グ、一市人アリ、來テ十兵衛ノ

面ヲ撲ク、則休其非禮ヲ憤リ、追テ之ヲ斬ル、時ニ年

甫テ十四、世人之ヲ壯トス、後光則故ノ村ニ退居  
 不、則休從上、徒ル、司郡河邊村、ノ、樂ナク野和助常成  
 俱ニ赤穂城、主淺野長矩ニ仕テ、樂ナク野和助常成  
 遭ヒ、遂ニ大石良雄等ト共ニ主仇ス、則休、元禄十六  
 年二月四日、水野監物ノ邸ニ自殺ス、則休、年三十八、  
 常成三十七、十兵衛、渡丈庵ト稱ス、  
 警ヲ以テ津山藩、松平氏ニ仕テ、  
 七年、巳未十一月、令封内植楮、森日記、吹日記、録、夫

長義、楮苗ヲ封内ニ領テ、毎戸一株ヲ植ヘシム、  
 是歳、疏鑿佐良川、郷村治、草繪、因、

先是、佐良川ハ一方村ヨリ井口村、並ニ久米ヲ迂流  
 シテ、津山川ニ入ル、至是一方村ノ地百八十間ヲ鑿  
 テ、徑ニ之ヲ津山川ニ注ガ、

大塚左門、三村伊織、切諫長義、不納、遂致禄去、山岡家記、森家全盛、

記。

長義嘗テ江戸ニ在リ、横山刑部左衛門ヲ以テ近侍  
 ト為ス、其家ヲ繼グニ、及デ刑部左衛門ノ資格ヲ進  
 メ、樞要ヲ委任ス、長義乃チ之ト謀リ、己ガ叙任ノ昇  
 進ヲ希ヒ、數、閣老ヲ其邸ニ請待シ、賄賂百方、國用窮  
 竭ス、於是、士禄及ビ社寺領ヲ減省ス、士禄及ビ社寺  
 扶持給ハ十分、延寶三年五月、國ニ就キ、聘馬、放鷹、漁  
 獵等、奢侈至ラザルナシ、士民怨嗟ス、重臣大塚左門  
 禄二千石、三村伊織、石、禄、千、數、諫、爭、ス、レ、ド、モ、聽、カ、ズ、二、人  
 遂ニ辭シ去ル、

天和元年、辛酉、令鑿羽出村銀墳、作陽、詩、

羽出村西條郡葛籠山ニ銀墻アリ、文祿以前開鑿シテ之ヲ採ル、世ニ羽出銀ト稱ス、至是長武長義ノ復之ヲ鑿タシメ成ラズシテ止ム、西條郡多ク銀銅鑛ヲ産ス、往日和泉鑛富商道珍ナル者、久田上原村ノ銀ヲ採リ、茲土生村ノ銅ヲ掘ル等皆作陽誌ニ載ス、美作縣志ニ載ス、方二年成改郡制為十郡、森氏雜記、美作縣志、方是年幕府其郡制ニ美作ハ十郡ト為スヲ以テ命ジテ之ヲ改メシム、長武乃チ久米勝田ノ南北ノ稱ヲ廢シ、凡テ十郡ト為ス、按ニ是時南北ノ別廢スベカ書ハ、特ニ勝田郡久米郡ト稱シ、其他ハ皆南分北分ノ稱ヲ用テ之ヲ分ツ、天和中免二宮村民太郎助罪、森氏雜記、美太郎助母ニ事ヘ至孝ナリ、母死シテ厚ク葬リ、費用

償フ能ハズ、竊ニ菅繩手村ノ宮小田中ニ在リヲ行松ヲ伐テ之ニ充ツ、既ニシテ事覺ハレ、捕ヘラル、吏之ヲ詰ル、對ヘズ、吏將ニ鞠問セントス、太郎助意ヲ決シ首伏シテ曰ク、老母死シテ葬資ナシ、因テ意ヲク、民木ヲ伐ンカ、其罪輕シ、只此レ民ニ害アリ、官木ヲ伐ンカ、其罪重シト雖ドモ、僅僅兩三株ノミ、官ニ於テ何カ有ラン、是レ重罪ヲ顧ミズシテ官物ヲ盜伐スル所以ナリト、後肯テ言ハズ、又飲食セズ、吏之ヲ藩ニ告グ、藩其生平ノ性行ヲ嘉ミン、乃チ之ヲ免ス、美作記、寛文中ノ事ト為ス、然ドモ行松ハ延寶八年始メテ植ル所ナルヲ以テ、雜記ノ說ニ據リ、天和中ニ改ムテ貞享二年乙正月十一日、津山城有怪、森家全盛記。

貞享二年乙正月十一日、津山城有怪、森家全盛記。



津山近郊、恠異多シ、是日、城中烟起ル、宛然失火、如  
シ、士庶駭走ス、暫クシテ滅マ、二月二十二日、夜空中  
光アリ日ノ如シ、於是、蜚言アリ、國政苛察、士庶怨讟、  
且横山等長成君ヲ呪咀ス、是ヲ以テ天此咎徴ヲ見  
ハスト云フ、

三年、丙寅六月三日、長武致仕。長成嗣。森系

長繼、長成ノ稍長スルヲ以テ、長武ニ命ジテ致仕セ

シム、長成嗣ガ、年甫テ十六、七月朔、長成將軍綱吉一

衛明、森正直、各務三右

東山天皇、元祿元年、戊辰七月、長尾勝明、修院莊舊跡、作陽

記氏雜

勝明、隼人、共一子、祿四千石、森氏國除ノ後、學識超

倫、夙ニ院莊舊蹟ノ荒廢ニ屬スルヲ傷ム、是年、乃チ

長成ニ請ヒ、新ニ櫻樹ヲ栽ヘ、石碑ヲ建テ、又石誌ノ

説ヲ作テ、邑ノ清眼寺ニ藏ム、曰、東魚西鳥相食以降、

海内鼎沸、勇猛豪傑、奉詔討賊、豈違枚擧哉、然世衰俗

非、毀志操者、比比皆然、當是之時、拔蕪文武、節全始終

者、備後三郎高德、此其人也、元弘二年、皇帝蒙塵、六龍

出洛、會駐院莊、高德閑行、詣于行在、上言無路、因刮庭

上之櫻、書語於其上、果歷天覽、雄備之言、俾百世之下

懦夫激昂、因以興起矣、矧野戰驍悍、勤勞最多、施到于

南北分裂、唱義誘衆、涉險被剗、厥心愈確、未嘗可動、方

之旦則左袒、暮則右袒、趨利避害、以謀偷生者、豈翅薰  
 猶相判哉、余政務之暇、過於院莊、乃視乘輿所駐、茶菴  
 塞路、櫻亦不存、孰不傷懷哉、是歲秋、告國君、新開一路  
 且樹以櫻、今又作銘刻誌于石、然而他日有路沒樹、枯  
 石誌亦以剝落、則荒廢復猶今乎、是故余留斯文、以俟  
 後之人、後之人有與我同志、繼絕興廢者、庶存此於無  
 窮、不亦善乎、高德距今今三百年餘、耀武烈於當世、此忠  
 誠所致、而丈夫所榮也、嗚呼、高德何等人、憶之至此、况  
 於優高德者乎、覽者以為勤、則彼焉足畏、勉旃勉旃、遂  
 記貽之清眼寺、昔貞享五年、龍集戊辰、秋九月上浣、作  
 陽執事、長尾隼人源勝明、

八月十日、長成浴勝田郡湯鄉村温泉。

森記録、森家全盛記、矢吹日記。

是年六月、長成始テ國ニ就ク、精ヲ勵シ、治ヲ圖リ、務

テ煩苛ヲ除ク、至是、輕裝湯郷ニ赴キ、留浴一週、日ニ

シテ還ル、先是、森氏入浴ノ為シ、茶室ヲ湯郷ニ設

二年、己春、長成命長尾勝明、編作陽誌、作陽誌、編輯社記

勝明命ヲ奉ジ、江村宗普、河越玄俊ヲシテ稿ヲ起サ

シ、自ラ之ヲ監裁ス、宗普乃チ西六郡ヲ編輯シ、六

年ニ至テ稿ヲ脱ス、玄俊東六郡ヲ編輯シ、未ダ成ラ

ズシテ國除ス、宗普春軒ト号ス、京師ノ人、貞享四年、

客俸ヲ給ス、後細川氏ニ病仕、以テ辭シ去ル、元

六月六日、支封閑長政致仕、長治嗣、閑家記。

長政子十、長繼子長治大藏、初養ヒ嗣ト為ス、

三年庚午五月、令諸寺定本寺。森記錄、陽誌。

寺院本寺ナキ者多シ、於是之ヲ定ノシム、

夏旱、大雩于德守神社。小原家記

五年壬申、置茶肆于苦西郡養野村。森記錄、地方書類。

伯耆通路、養野、百谷二村西郡、西條郡、間、百谷峠アリ、人家

斷絶ス、冬ヨリ春ニ涉リ、積雪路ヲ埋メ、人馬往往凍

餓ス、是年、森氏始テ茶肆ヲ置キ、行旅休憩ノ處ト為

シ、米三石ヲ給ス、按、真島郡四十曲、大庭郡三坂、山勝北郡黒尾峠ニ茶肆ヲ置ク者、蓋

シ亦是時ナシ

六年癸酉正月二十七日、町野加右衛門、斬藤田孫之進。森記

録。森家全盛記。

加右衛門百石、初休助ト稱ス、父加右衛門、曾テ長成

ノ傳ト為リ、勤勞アルヲ以テ、亦近侍ト為リ、加右衛

門ニ更ム、性剛直、恒ニ同僚藤田孫之進百石、ノ佞邪

ヲ惡ム、是日、室ヲ隔テ孫之進ノ長成ニ勸ムルニ放

逸ヲ以テスルヲ聞キ、憤恚ニ禁ヘズ、遂ニ之ヲ城中

松ノ段ニ要殺シ、家ニ歸テ自殺ス、

七年甲戌七月、長成浴温泉于苦西郡真津村。森記錄。

是月二十一日、津山ヲ發シテ奥津ニ抵リ、留浴三週

日ニシテ乃チ還ル、十年二月、長成復此ニ浴ス、

八年乙亥九月、移硝庫于佐良村。森記錄、森家全盛記。

慶長以還、火藥ヲ山北村ニ藏ス、其地人家ニ接近スルヲ以テ、長成棍川當秀與一衛、林直一又、兵ニ命ジテ之ヲ佐良村條久米郡、南ニ移サシム、當秀等、是月十二日ヨリ、十月二十五日ニ至テ之ヲ終ス、量凡ソ二十萬斤、從元禄十六年、津山藩主松平氏、佐良村ハ甲府徳川氏ニ隸スルヲ以テ、之ト謀リ、硝庫所存ノ地ヲ割テ、封内一方村ニ屬シ、而ノ一方村ノ地ヲ分テ、佐良村ニ屬ス。

十月、長成奉幕命、築狗廬于武藏國中野村。森家全盛記、森記錄。

將軍綱吉、狗ヲ愛シ、畜養數萬ニ及ブ、於是長成ニ命シテ狗廬ヲ築カシム、長成辞スル能ハズ、是月十八日、初テ土木ヲ興シ、開式部、可見又右衛門等ヲシテ役ヲ董サシム、十二月四日、功成ル、地積十二萬二千

六百步、狗廬二百八十九、飼舎百四十八、竈舎、碓舎各四、監舎若干、雇役九十三萬五千零九人、雇給三萬九千百六十六兩、其他經費數ヲニ勝ユベカラズ、十五日、綱吉長成ニ時服十領、式部又右衛門、及ビ橋本藤左衛門等ニ時服白銀各若干ヲ賜フ、十八日、長成侍從ニ任ズ、

是歲、關新道于三崎河原村。郷村沿革、繪圖。

官道三崎河原村大庭郡、險阪アリ、上下九十六間、人馬皆困ム、久世村同郡、金田市左衛門、金若干ヲ出シ、坦路ヲ其下ニ開ク、久米南條郡小折、金屋ニ村ノ路ヲ開、山麓ニ通ズル者、元禄七年ヨリ、十五年ニ至ル間、山麓ニ係リ、年月人名ヲ詳ニセズ、録シテ後ノ備考

九年丙寅五月十八日。長武卒于江戸。森系圖。

長武延寶二年十二月、從四位下ニ叙ス、病革ニ及テ、

其米地貞享三年、長成廩米二萬石ヲ供シテ、養老ヲ

弟長基郡小十郎、初主殿、真島ニ讓ルヲ請フ、卒八年五

十二、法謚圓明、東叡山先是、長武幕府ノ元老柳澤吉

保ニ依テ一家ヲ興ント欲シ、事覺ハル、七月十七日、

長基江戸ニ詣ル、二十六日、幕府森長俊、関長治及ビ

長基ヲ召シテ曰ク、長武奸謀アルヲ以テ、其遺祿ヲ

收メ、之ヲ宗家ニ還附スト、於是、長成横山刑部左衛

門等ヲ放ツ、

十年丁卯三月長成賑飢民。森記

是年、無産ノ徒、流離シテ津山ニ來ル者多シ、森氏は

月十九日ヨリ、五月十三日ニ至ルマデ、麥粥ヲ炊キ、

一萬四千人ニ賑ハス、

六月二十日。長成卒。森系圖。森記。森記。

長成、貞享三年十二月、從四位下ニ叙シ、美作守ニ任

ズ、元祿八年十二月、侍從ニ任ズ、是年三月、津山ヲ發

シ、四月二日、江戸ニ詣ル、病ニ罹リ遂ニ起タズ、年二

十七、法謚雄峯、芝祥終リニ臨ミ、關衆利部式ヲ養フヲ

請フ、長成資性仁恕、政ヲ為ス清約、下ヲ撫スルニ恩

信ヲ以テス、二十七日、訃至ル、内外哀惜セザルナシ

七月十一日。関衆利至伊勢。發狂病。

森記録  
家金成記

衆利初大助子長ハ長成ノ叔父ナリ、老臣関衆之ノ嗣

ト為リ、式部ニ改稱ス、長成卒後二日、閣者土屋政直、

藩士奥田忠晴平左衛門ニ内諭シ、衆利ヲシテ速ニ東上

セシム、於是、淺尾為義權太左衛門、左今西高平平兵衛、日夜兼

行シテ之ヲ報ズ、是月四日、衆利乃チ津山ヲ發シ伊

勢名生村ニ抵テ、俄ニ瘋狂ヲ病ミ、進ム能ハズ、阿坂

五郎兵衛、加藤治右衛門之ヲ東西ニ報ズ、長尾勝明、

原一益十兵衛等、乃チ之ニ赴ク、長繼、江戸ニ在リ、報ヲ

得テ親族鳥井忠秋、保科正祥ヲシテ、衆利中途病ニ

罹ルヲ以テ、参府ノ期ヲ延ント請フ、幕府許サバ、長

繼即チ其臣橋本卓親藤左衛門、伴利貞平太左衛門、左及ビ醫師

益田道榮等ヲ伊勢ニ遣ハシ、強テ扶ケ来ラシム、竟

ニ發スル能ハズ、長尾勝明、東馳シテ之ヲ告グ、於是、

長繼其祀ヲ絶ツヲ恐レ、土屋政直ニ就テ書ヲ上ル、

其略ニ曰ク、長成ノ嗣子衆利、途上病ニ罹リ、劇熱猛

症常ニ非ラズ、若シ病快復スルモ、亦當サニ奉仕ニ

任ヘガラントス、惟ルニ先考忠政、東照公ニ從ミ、戎

馬ノ勞アルヲ以テ、辱ク美作ヲ賜フ、爾来因襲長成

ニ至ル、而テ長成大折シ、衆利劇病ヲ患フ、豈ニ天ナ

ラズヤ、敢テ衰ヲ乞フノ道ナキナリ、雖然、老臣年已

ニ八十有八、此餘喘ヲ以テ、一族絶祀、士庶流離ヲ視

ルニ恐ビズ、幕府明恕先臣ノ微勞ヲ祿シ、骨肉ヲ以テ嗣ト為シ、先祀ヲ存スルヲ得バ、幸甚明年七月十日長繼江

八月二日。森氏國除。森記錄。國朝。章錄。

此日、幕府長繼ヲ召テ曰ク、衆利狂疾ノ故ヲ以テ、美作ヲ没収ス、然レ、凡特ニ長繼延寶三年、東北條、西北

養老料トス、分テ、ニ祿二萬石ヲ賜フト、二十六日、長繼季子長直和泉守ヲシテ之ヲ襲ガシム、

十月十一日。幕府收津山城。森記錄。森家全盛記。

幕府、田村建顯陸奥一ヲ以テ上使トシ、松平直明播磨藩主、酒井忠圓若狹小ヲ以テ收城使トシ、松平綱長

安藝、ヲ以テ城番トシ、而テ大目附水谷勝信彌之助、國主、中坂部目附赤井平右衛門、仁賀保孫九郎、代官竹村惣左衛門、守屋助次郎、岡田五右衛門ヲ差遣シ、諸事ヲ辦理セシム、是月四日、平右衛門等津山ニ抵ル、七日、忠圓從者六十人、押入村東南ニ至ル、九日、直明從者四百七十人、河邊村勝南ニ至ル、十日、建顯從者二十人、亦河邊村ニ至ル、先是、綱長ノ老臣淺野高直伊織、從者四百人、院莊村西ニ到ル、於是建頭長尾勝明、原一益ヲ召シ、告ルニ收城ノ期ヲ以テス、十一日、刻、建頭直明南門ヨリ、忠圓北門ヨリ、齊ク城ニ入ル、森三隆、長尾勝明、乃チ版籍及ビ印書ヲ還納ス、十三日、高

直代テ城ヲ成ル、建頭、直明等、即チ津山ヲ發シテ、江  
戸ニ歸ル、

十九日、幕府賜森長直、森長俊、關長治、米邑。森記錄。森家全盛記。

是日、備中江原二萬石ヲ長直ニ、播磨三日月一萬五  
千石ヲ長俊ニ、備中新見一萬八千七百石ヲ長治ニ  
賜ス、

十一月十五日、幕府賑森氏士卒。森記錄。森家全盛記。

赤井平右衛門、仁賀保孫九郎等、幕命ヲ奉シ、森氏ノ  
重臣ヲ召シテ曰ク、國除ノ家臣ヲ救卹スル、其例ナ  
シト雖、森長繼及ビ森三隆、長尾勝明ノ歎訴ニ因  
リ、特ニ舊高五百石以下、卒隸ニ至ルマデ、一百五十

日間、舊祿ニ仍テ之ヲ賜フト、二十日、乃チ倉廩ヲ開  
キ之ニ賑ハス、



2  
21

美作畧史  
卷之三

堂  
精  
大  
亦

2
21

